NEPAL WORK CAMP

2015

2/22～3/12

At Maidan

目次

ネパールキャンプについて
マイダン村について
人物紹介
今回の行程
タンセンの学生とのキャンプ
ワーク
エンターテイメント
ホームステイ
ダンス交流プログラム
生活リーダーから
会計報告
記録リーダーから
感想

ネパールキャンプについて

村人とワークを通じて心を通わす。ワークキャンプは日本から最低でも 3 日の移動を要するネパールの山奥の村で行われる。そこで、村人と同じようにご飯を食べ、水を運び、働き、騒ぎ、寝る。日本から見れば不便な生活を送り、言葉も通じにくい環境の中でこそ、かけがえのない人と人との繋がりができる。

ネパールワークキャンプは 10 年以上前、はじめてFIWC関東委員会で行われた。それ以降、主にパルパ郡で支援活動を行うOKバジと深いかかわりを持ちながら、様々なワークを行ってきた。幼児教室建設、トイレ建設、道路舗装、バイオガストイレ建設、貯水タンク建設…。今とは違い、日本人が村に入ることもほぼ初めてという村でキャンプを行い、様々な考えをめぐらせ、行動を起こした先輩方には敬意を表する。

ネパールという国は世界最貧国の 1 つとされる。様々な支援が入り、環境も徐々に良くなりつつあるとはいえまだまだ過酷な暮らしである。他方、我が国日本では失われた 20 年と言われる長期の不況の中にあり、いわゆるゆとり世代、さとり世代と言われる私たち学生は夢を見ず、先人たちが積み上げてきた今の暮らしにあぐらをかく。よく言われることだが、生活水準は日本のほうが上だが、生活力水準はネパールのほうが上だということである。そんな二つの国だからこそできることがあると思う。今、我々は共に手を取り合い、大きな夢を描くときではないか？独りでは成し遂げられない夢を共に追う時ではないか？

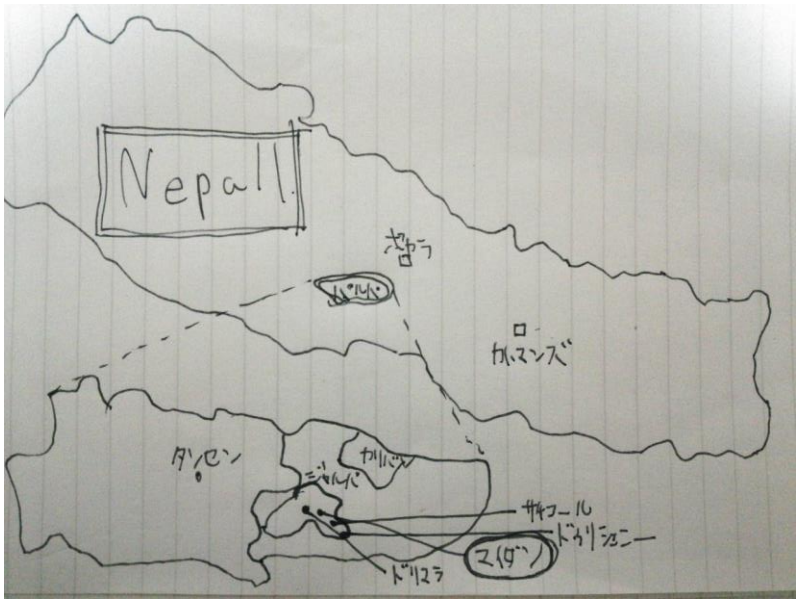
我々が行うことは支援であって支援でないと思う。村にとって本当に必要なものを造るワークをする。ワークキャンプにとって自明のことである。それは客観視すれば支援を行うことである。しかしそれはあくまで私とあなたというシンプルな関係の延長にある。支援という言葉にはどうしても支援者と被支援者という見えない上下関係があるように感ずる。だからこそ、学びに行くという姿勢を忘れずにいたいのである。互いを尊重する心を持った上で、同じ時を過ごし、共に働く。そこにはかけがえのない絆が生まれるはずである。（中谷）

2000	SCI ネパールが建設途中の学校プロジェクトを引き継ぐ形でワーク開催。
2002	SIC のもとでティミに学校建設（小野）
2003	**ドゥリシェニー村で幼児教室建設（宮本）**
2004	**ドゥリシェニー村でトイレ建設（菅野）**
2005	マオイストによる情勢悪化でキャンプが行われず。
2006	マオイストによる情勢悪化でキャンプが行われず。
2007	**ドゥリシェニーで村道路舗装（高木）**
2008	ネパールキャンプのホームページができる
2009	**ポカリチャープ村でバイオガストイレ建設（菅野）**
	開催されず。ネパールキャンプを無くしたくないと 2011 年開催決定。
2011	**カリバンでバイオガストイレで建設（安高）**
2012	**ジョケティ村でバイオガストイレ建設（菅野）**
	2013 は関さんとキャンプをするに決定
2013	**マイダン村で貯水タンク建設（安高）**
2014	**マウジャ村で水道建設（四十万）**
2015	**マイダン村貯水タンク建設（中谷）**

マイダン村の紹介

岡田悠希

タンセンから 3~4 時間ジープで移動したドリマラ村の更に奥にある村が今回のワークを行ったマイダン村。標高 1500 メートルという高さに位置しているので空気はとても澄み渡っていて、晴れた日の朝は特にヒマラヤ山脈が美しく見える。人口約 600 人とヤギ・豚・牛・鳥あらゆる動物が生息。村人はみんな元気に毎日朝から活動していて、日本にはない生活力そのパワフルさがあった。子ども達はほとんどの子がシャイで「ナマステ～! 」と挨拶をすると恥ずかしながらも「ナマチュテ」と返してくれる姿に癒される日々。村人には優しく気さくでおもしろい人が多いので毎日が楽しく、村での生活はあっという間に過ぎ去り、帰ることがとても寂く感じる程。



・日本人との関係性

OK バジによる橋渡しで日本の団体もしばしば入っている。FIWC 関東でも、2013 年に関さんによるコーディネートのもと、貯水タンクを 3 つ建設するワークキャンプを行った。昨年 10 月には、日本の団体の支援により、図書館が建設された。

・人口

約 62 世帯あり、人口は約 600 人。うち子供は約 200 人で、村の学校に通う生徒で 150 人ほど。

・ライフライン

電気は通っている。しかし度々停電が起こる。水は貯水タンクでまかなっている。村の中心にあるタンクから飲み水が供給されている。また、携帯の電波も通っており、村人で携帯を所持する者もいる。

・産業

農業中心。ちなみに獲れる作物を聞いたところ、一番はトウモロコシだそう。他にも、トマト、キャベツ、カリフラワー、サトイモ、ゴーヤ、ズッキーニ、大根、ニンニク、オクラ、カボチャ、キュウリ、あと少しの米も獲れるとのこと。これらの作物を育て、自給自足に近い生活を送っている他、現金収入を得るには、野菜や豚肉を売ることによる。また、村の外、あるいは海外に出稼ぎに出ている者もいる。

人物紹介

OKバジ（垣見一雅）

1939 年東京生まれ。早稲田大学商学部卒業。私立「順心女子学園」の英語教師を 23 年間勤める。1993 年より単身ネパールパルパ県ジャルパ郡ドリマラ村に住み、支援活動を始める。現在、村人たちが立ててくれた 6 畳ほどの「城」を棲家に、活動に共感した様々な団体、および個人からの支援を受けながら活動を行っている。（「OKバジ」サンパティック・カフェ、2012 より）

我々のワークキャンプでも当初より現地コーディネートを含めほぼ毎回彼のもとでワークキャンプを行っている。今回は下見以前の情報収集からお世話になった。彼専属のコーディネーターを通さない異例のやり方であったが、その分直接話し合うことが増え、互いに理解が進められた。

関昭典

東京経済大学准教授。研究分野は、英語教育、第二言語学習の動機付け。2007 年より、アジア地域の学生の交流を推進し、日本の若者のグローバル化に貢献することを目的としＡＡＥＥ（アジア教育交流研究機構）を発足させる。2 年前、ネパールのポカラに住んでいたこともあり、現地に広いネットワークを持つ。共にワークキャンプを行うようになったのも 2 年前のリーダーとポカラでたまたま出会って意気投合したのがきっかけ。

今回も航空券代を負担しただけだが、準備段階から大変お世話になった。我々と現地が将来的に直接結びつくことに理解を示してくれ、そのためのネットワークの紹介など 3 年越しでお付き合いが続いている。

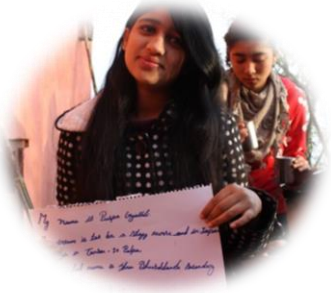
今回のキャンプでは自称「最多風呂に入らなかった日数」を達成したらしい。「なんかおもしろいことやってよ」など無茶ぶりが絶えない。

＜関係著書＞

「笑顔の架け橋　ーネパールから感謝をこめてー」（垣見一雅、メグラージュ・シャルマ、関昭典　編著、2010 年）

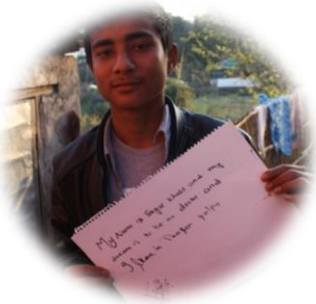
タンセンの学生たち

今回キャンプに参加したタンセンの学生。
だいたいみんな 15 歳。



プシュパ

物知りなシティガール。友達思い。

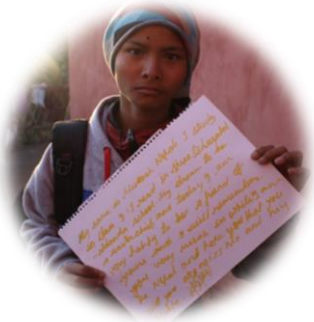


サガル

動物の鳴きまねチョーうまい。

パルミタ

クールかと思いきやダンス&歌ではっちゃける。



ムケシュ

コック。トマトソースは絶品。

スンダルさん

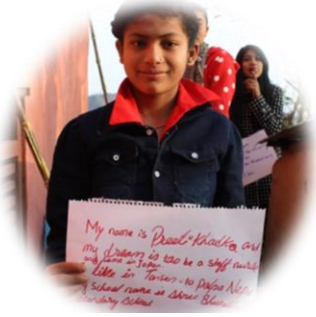
タンセンの学校の校長。ハイテンションの人で人を巻き込んで楽しいことをするのが上手い。学生のうちは失敗していいんだよと語る良き先生。

スマンプン

軍隊。力持ち。悪酔い。

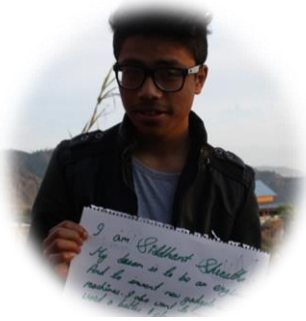
ソニカ

気遣いが素晴らしいお姉さん。



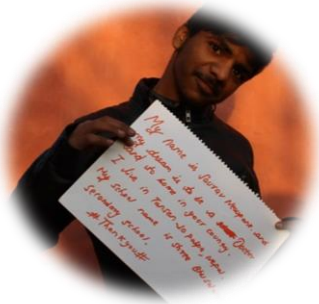
プリティ

みんなのアイドル。



シッダン

スンダルさんの息子。まじめなやつ。



サウラブ

ちょびひげのダンディなやつ。

キャンパー

岡田悠紀

中谷拓隆(なかやひろたか)→なかやん

キャンプリーダー

とてもキャンパー思いで責任感のあるしっかり者。
村人からも愛され「なかやロキシー」として知られていた。

樋口美波(ひぐちみなみ)→みなみ

サブリーダー

優しく、しっかり者でリーダーを支えていた。
村人にいつも積極的に話しかけコュニケーションを取り、終始にこにこ。

荒井諒(あらいりょう)→りょうちん

生活リーダー

人見知りだけどお調子者で、でも周りのことをよく見て行動していた。
途中二日酔いで体調を崩していましたが後半は元気いっぱいりょうちんだった。

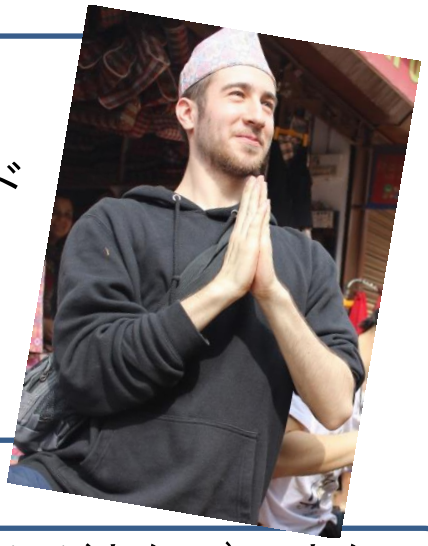
川島亜美(かわしまあみ)→あーみん

エンタメリーダー

しっかりしてそうだけど実は天然な性格で、場を和ませていた。
運動会では手を挙げ笛を吹き生徒達を仕切っていた。

David Charles Minges

(デイビッドチャールズミングス)→デイビッド



会計リーダー

優しく面白い人柄でキャンパーやリーダーから親しまれていた。
後半は村で食べた豚肉で体調を悪くし寝込んでいた。

加賀佐奈子(かがさなこ)→さなこ

ワークリーダー

明るく元気いっぱい活動していた。ワークの材料が
届かなかったり雨天だったりと大変な中、リーダーとして
連絡を取るなど頑張っていた。村に入った時期のトイレ事件は凄かったよう。

中野秀昭(なかのひであき)→ひで

記録リーダー

後半組として参加した。物事を順序立てて考えるザ理系。
おっとりと優しく、よく場を和ませていた。
またネパールに戻ってきそうな気がする。

岡田悠希(おかだゆき)→ゆきりん

記録リーダー

後発組として参加。都会っ子だからどうかなーと
思っていたけどそっこー村になじんだ。
とにかくどこでも寝れる。
移動中めちゃくちゃに揺れるバスで床にずり落ちても寝てるときはびっくりした。

近藤ゆき

AAEEのコーディネーター。以前マイダン村他パルパで
スタディツアーのリーダーをした経験がある。
今回はマイダンにもう一度訪れたいと関さんの助手という形で参加。

シャラッド

AAEEのコーディネーター。めちゃくちゃ賢いらしい。
雰囲気で言いたいことを汲み取ってくれる。
身長 190 ㎝以上のデカさで彼の横で寝るのは温かかった。

プラテクシャ

AAEEのコーディネーター。ポカラでラジオやってるらしい。
昨年のキャンプでも手伝ってもらったが、がっつりコーディネーターは今回初。
彼女の学校で交流プログラムを行った。

村人たち

→別紙：村人図鑑を参照（記録リーダー作成）

今回の行程

樋口美波

2月22日
先発組日本発

2月23日
カトマンズ着。シャラッド、プロテクシャが空港まで迎えに来てくれる。

2月24日
カトマンズからタンセンへマイクロバスで8時間の移動。バスに乗車する前にスンダルさんと会い一緒にタンセンに向かう。変わる景色に感動する。車酔いとの戦い。初ダルバードを経験する。タンセンに到着し学校へ！生徒たちから手作りの花輪とラディグラスなどで歓迎を受ける。OKバジさんとお会いする。男子はスンダルさん宅、女子はマイダン村へ一緒に行く学生の家でホームステイをする。

2月25日
タンセン内散策。山を駆け登る。各ホームステイ先でランチを食べ、タンセンの9人の学生と共にジープでマイダン村へ。車内では大合唱会。ドライバー若干道に迷う。村のリーダー的存在のガンガさん、モハンさん不在。

2月26日
雨のため初ワーク中止。タンセンの学生と歌のゲームをして過ごす。午後は村の学校訪問。デイビットがみんなの前で踊る。夕食はキャンパーがハンバーガーを学生たちに振舞う。「ミトチャ！(美味しい)」を頂いた。「KURU~！」が大流行。(ネパール語で「talk」という意味らしい)

2月27日
去年のプロジェクトの水道タンクを見に行き、そこで村での初めての水浴び。ワーク開始！ドコナム口を使い石運び。夜はスンダルさんと村人が3匹の鶏を絞めてくれ晩御飯をいただく。タンセンの学生に夢を書いてもらう。その後は多くの村人と一緒に踊って歌って騒いだ。スンダルさんと夜遅くまで話し、「スンダル」を教える。りょうのお誕生日をお祝いする。後発組日本発。

2月28日
タンセンの学生とお別れ。ワークは石運び。力持ちの村人に対抗するが叶わず。後発組カトマンズ着。

3月1日
シャラッドとお別れ。雨のためワーク中止。ダンス練習をする。午後は学校に行き1~4年生のクラスで古着Tシャツデザイン教室。絵がと

っても上手だった。後発組カトマンズからタンセンへ移動。

3月2日

またもや雨。学校もない？らしく子供たちとバレーをしたり、歌ったり、お絵かきしたりと過ごす。その後子供たちと後発組を迎えに隣村へ歩いて向かう。後発組と関さん、プロテクシャ、近藤さんと合流。みんなでご飯を食べ、ホームステイ開始。

3月3日

ワーク石並べ。

3月4日

資材はセメントのみ村に届けられる。石集め班、土台作り班に分かれワークが進み土台が完成する。

3月5日

村でのホーリー祭の日。日本食も用意し村人に食べてもらった。「ミトチャー！」をいただいた。ヒデが代表し豚を絞めた。村人がそれをさばき美味しく料理してくれた。ホーリー祭は色水を掛け合うことが有名だが、村ではそれをせず、豚を食べ、一緒に火を囲み歌い踊り笑いあった。村の音楽団は本当に歌が上手。解散後お夕食パート2があったステイ先も、、、

3月6日

プロテクシャがカトマンズに帰る。疲れと久しぶりの肉の影響でキャンパーの多数が下痢に、、笑2時頃までワークの予定が、金曜日はネパールの休日らしくワークは進めず早めに切り上げ。その後学校で約１００人の生徒とスポーツフェスティバル!!プロテクシャ不在のため難しい所もあったが、さすが子供たち！なんでも楽しさに変えてくれる！様々な競技をし大盛り上がり。おやつを食べ、資材の到着確認＆ゲストハウスの掃除。滞在中に資材が全部到着した。スンダルさんとタンセンの学生へのメッセージカード作り＆各自でステイ先へのお手紙作成。夜は停電だったが、それぞれ家族と最後の夜を過ごした。

3月7日

マイダン村最後の日。村人との別れ。朝最後のチャイを飲んだ。ラディグラスの手

作りの花輪を受け取り、赤い粉末のティカを付けてもらう。「元気でね！またね！」って最後の最後まで村人は優しく、見送ってくれた。ジープでアルバンジャンへ。スンダルさんと再会。ここで、スンダルさんともお別れをし、マイクロバスでポカラへ。ポカラ到着後散歩をし、お夕飯は日本食を食べる。

3月8日

早起きをしヒマラヤ山脈を見に行く。大きさに圧倒され、人目を気にせずジャンプとかしてみる。みんなでモーニング。その後自由行動で、湖をボートで渡ったり、お寺に行ったり、マッサージ行ったり、ショッピングしたり、ホテルで寝ていたり。宿の庭でダンスの練習。夜はお洒落なお店でお夕飯を食べる。

3月9日

ポカラからカトマンズへツーリストバスで移動。案外快適で、みんな体調を崩すことなく?到着。本場のモモを食す。夜のミーティングで交流プログラムで歌も歌うことに突然決まる。

3月10日

「Rupak Memorial International Higher Secondary School」での交流プログラム。音響機材が届くのが遅れ、1時間遅れでスタート！カトマンズの学生からの催し物を見たり、FIWC からはソーラン節、怪盗少女、さくらを披露し楽しむ。最後には、レッサンフィリリーを一緒に歌う。宿に戻り、夢ネパールの方とお話をする。とても良い方達だった。最後のお夕飯はチベット料理レストランで打ち上げ！特に会話は覚えてないが、本当に美味しかった！キャンプの感想や今後のことのミーティングをし就寝。

3月11日

最終日。この日は街を歩いてると「tsunami」とよく声をかけられた。みんなでモーニングを食べ自由行動。お昼ごろに、関さん、プロテクシヤ、デイビット、関西組出発！サプライズで夢ネパールのアシスが空港までお見送りに来てくれた！飛行機の多少の遅延があったが無事に関東組も出発した。

3月12日

日本着!!

タンセンの学生とのキャンプ

今回のキャンプの試みとして現地の学生と共同でワークキャンプができないかを模索した。

1.目的

①違う文化、価値観学生同士で、交流し、互いの将来に刺激になる
②日本語から英語、ネパール語を通じて村人とのコミュニケーションの円滑化
③キャンプ地の事前事後の情報収集

2.一連の流れ

昨年 11 月頃	タンセンの学校と共同でキャンプをすることが決まる
今年 1 月(下見)	詳しいことを校長スンダル氏と話し合うはずがまさかのインドに行っていて不在。同学校の先生ロメシュと話をし、男 2 人女 2 人が 10 日間村に来ることが決定。
2 月上旬	スンダルさんから関さんに村に 3 日間しか滞在できないし、せっかくの機会だから 4 人以上連れて行きたい旨の話が出る(勝手に最終決定の模様)
2 月 24 日	カトマンズからスンダルさんとタンセンに向かう 学校で歓迎を受けた後、**タンセンでホームステイ**
2 月 25 日	タンセンの学生 9 名と日本人キャンパー6 名、シャラッドの計 16 名がジープでマイダン村へ。(定員オーバーしたくなかったからジープをまるごとチャーターしたのに結局定員オーバー)。OKバジとスンダルさんはバイクで向かう。
2 月 26 日	雨でワーク中止のため、歌のゲームをして過ごす。**日本食?**
2 月 27 日	ワーク。夜は鳥をさばき、ダンサーを呼んで村を挙げてのパーティ。
2 月 28 日	タンセンの学生、スンダルさんとお別れ。

3.詳細

タンセンでのホームステイ

3 月 25 日、タンセンでホームステイを行った。宿泊させていただいたのは、一緒に村へ行く学生の家だという打ち合わせ。みなみはソニカの家へ、さなことあーみんはプリティの家へ、そして我ら男陣はスンダルさんの家へ・・。学生でも何でもねえ!!!スンダルさんとこかよって思いながら、彼の家に。

・スンダル宅では・・
着いてから翌日からのこととか話してた。そうこうしているうちに夕ご飯。スンダルさんの奥さんの料理はチョーおいしい。OK バジも時々食べに来るのだとか。その後お風呂へーのはずが、昨日入ったし、いいやって布団に転がる。そのまましゃべりながら就寝。朝もご飯はおいしかった。みんながいっぺんにトイレ行きたいから、トイレ待ちがすごかった。

・ソニカ宅では
21 歳のみなみよりお姉さんっぽいお姉さん、ソニカの家。家族そろってイケメン＆美人。もっとゆっくりしたかったかなー！24 時間もいれなくて、家族との時間があんまりなくて寂しかったかも、人数多くて楽しかったけどね！

・プリティ宅では
一緒にチャパティを作れた!! 何よりプリティがかわいかった!!自分の家や家族を紹介するプリティは嬉しそうだった。

良かったところ
・学生本人だけでなくその兄弟だったり家族の状況も少し見ることができた
・村との家の違いを見れた
・仲良くなるキッカケになれた
・自分の家を見せる学生が嬉しそうだった

悪かったところ
・男子の方は学生とのホームステイではなかった
・まあそれもあり？
・情報がいまいち伝わりにくい

Cooking

タンセンの学生と村のいる間はネパールキャンプにしては珍しく？自分たちで毎食料理を作った。
とは言ってももちろん毎食ダルバート笑（ネパールの一般的な食事です）
二日目の夜は日本人がハンバーガーを、三日目の夜には鶏肉のカレーを作った。

きほんはダルバート

ネパールの普段の食事。ダル（豆のスープ）とバート（米）、タルカリ（野菜とか煮るか焼いて味付けしたやつ）、たまにアチャール（びっくりするくらい辛い漬物）。みんな手で混ぜて食べるが、手で食べておなか痛くなりたくないので、スプーンディノス（スプーンちょうだい）でした。美波だけは最後まで手で食べてた。
ムケシュはコックになるらしく、彼のオリジナルトマトソースは大人気だった。
キャベツなんかは生のままバリバリいく。獲れたてだから甘くておいしい!!

日本食（ハンバーガー）

日本人から、日本食という名のハンバーガーを振る舞った。本当はてんぷらや、だし巻き卵などやる予定だったが材料全くそろわず、村で手に入るものだけで作った。プリティに「作り方教えて!!そしたら家に帰っても日本食作れるから!!」って言われて少し心が痛んだ。村の売店で買えるパンを焼き、キャベツ、トマトソース、カボチャ、トマト、玉ねぎを挟んだ。どうなるかと思ったが、おかげさまで大好評!!とてもおいしかった!!

鶏肉のカレー

タンセンの学生が帰る前日、鶏肉のカレーを作ってくれた。スンダルさんが「今日は鳥を絞めるぞー!!」ってテンションあがってた（あの人基本的にテンション高いけど）村の生活にとって肉を食べられるということはかなり珍しいこと。村人が鶏肉をさばく様子を間近で見た。そしてみんなで鳥のキ〇タマを食べた。意外とイケる!!

Work

雨もあってタンセンの学生とワークができたのはたった一日だけ。
でも一緒に作業した経験は必ず残るはず。

Free time activity

タンセンの学生たちはとにかく歌うことが大好き!!雨でなにもできなかった日も歌のゲームをして過ごした。男子VS女子で、片方のチームが歌を歌って、最後の文字で始まる歌を相手チームが歌う。その繰り返し。つまりはうたしりとりですな!!

4.アンケート

記録リーダー

キャンプを現地の学生と一緒にやる。この試みを次に生かすためにもアンケートを行った。

タンセンの学生との交流プログラムのアンケート結果(全 9 人)
①～③は verygood/good/ok/bad/verybad の 5 項目で④は yes/no で評価してもらった。

①マイダン村での交流プログラムは楽しかったですか？
　9 verygood

②1.自由行動は楽しかったですか？
　　4 verygood/4 good/1 ok
　2.料理は楽しかったですか？
　　7 verygood/2 good
　3.ワークは楽しかったですか？
　　7 verygood/2 good

③全体を通して最も記憶に残ることはなんですか？
　4→料理、歌、ダンス、ワーク、ハンバーガー
　2→ハンバーガーを作ったこと
　1→一緒に楽しんだこと
　1→一緒に食べて歌ったこと
　1→ノキア(中谷)のギターとデイブのダンス、ハンバーガー

④このプログラムにもう一度参加したいですか？
　9yes

⑤提案があれば書いてください
5→お互いに助け合うべき
4→提案がないほど素晴らしいプログラムだった。

考察
このプログラムをタンセンの学生に十分楽しんでもらえた。料理やワークといった決まったプログラムの方が充実していたと考えられる。
⑤のお互いに助け合うべきという点は料理を作るプログラムでこちら側がタンセンの学生に料理を任せていたことが予想されるのでこちら側もより積極的に参加していくべきである。

～タンセンの学生を思う～

タンセンの学生とのキャンプはめちゃくちゃ楽しかった。彼らはとってもしっかりしていて、15歳とは思えない。一緒に歌を歌い、ご飯をつくり、ワークをし、とても楽しい時間を過ごすことができた。

しかし、ふとした時に思う。彼らはあの若さでもう社会に出ていくのである。ムケシュは外国に行ってコックになるといった。軍隊に入るやつもいる。看護師になる人も、エンジニアになる人も･･。彼らは 15 歳という若さで地に足の着いた将来設計を持っている。下のデータを見てほしい。ネパールでは 8 年生を超えると就学率が半分以下にガクッと落ち込む。理由は、男は働き手として社会に出なくてはならない、女性は生理が始まり設備の整っていない中就学するのは困難などの要因がある。

男性は職業をまだ自由に選べる時代になったかもしれないが、女性はまだ「家庭を守る者」という観念が強い。二年前にポカラの大学を訪問したとき、「男は自由だが、女は家事などで自分の時間が全然取れない」と学生が話した。しかもネパールはもともとカースト制度を持つ国である。少しずつ選択の幅は広がっているかもしれないが、自由に夢を描ける社会ではない。どれだけでも選択肢があっても何もしない日本の学生とはまさに対照的である。（だからこそネパールキャンプの方針もそこから見出せると思うのだが）

話を今回のキャンプに戻そう。タンセンの学生ととても貴重な時間を過ごせた。もしかすると、彼らにとって今回のキャンプは就学旅行のようなものであったかもしれない。外国の学生と共に過ごした数日間はかけがえのない思い出になるだろう。しかし、それをただの思い出に終わらせたくはない。もしかしたら一生の友となるかもしれない。そんな繋がりをつくっていくことができるのではないかと思う。（中谷）

1. 就学前教育

ネパールでも近年、保育園･幼稚園教育は盛んになってきているが、子供に就学前教育を受けさせることができるのは、都市部の中流以上の家庭のみであり、地方では殆ど行われていない。

2. 義務教育

8年生まで授業料無料、10 年生まで教科書無償となっている。都市部では中学まではほとんど、高校もかなりの者が進学しているが、地方や山間部での就学率は低い。

義務教育の学校段階 種類および就学状況	**小学校：5 歳～ 9 歳、1 年生～5 年生　就学率 95.3% 5 歳～12 歳、1 年生～8 年生　就学率 87.5% 高等学校：14 歳～15 歳、9 年生～10 年生　就学率 32.4%**
カリキュラム･教授言語	使用言語はネパール語、英語。
義務教育段階の学費	【授業料】 8 年生まで無料。9～10 年生は女子及びダリットのみ無料。 【その他の費用】 **教科書は10 年生までは無料** ※ネパールは、先年「全ての小学生に教育の機会を与える」とのダッカ･コンファランスに署名。

外務省HPより

ちなみに 12 年生修了後、大学に進学するのは約 15%

ワーク

加賀佐奈子

今回のワーク内容は飲み水用のウォータータンク作り。村に既にあるタンクは容量が少なく、また老朽化などの問題があった。この新たなタンクが完成されれば、村人の飲み水を十分まかなえるという。ワーク予定日は 8～9 日。現地滞在期間は乾季であるはずなのだが、予想外の雨が続き、結果実働できたのは 4.5 日。建設予定期間は 2,3 週間であり、日本人キャンパーは最後まで居合わせることはできなかったが、なんとかウォータータンクの基礎までの部分は村人と一緒に完成させることができた。またワーク初日はタンセンの学生とも一緒にワークをすることができた。

1 ワーク工程

1土地を均す

建設地は村の中心から少し離れた小高い丘の上。我々日本人キャンパーが着いた時点ですでに土が均されタンクができるであろう型が形作られていた。村人ありがとう！

2 岩を砕く＆石を運ぶ

村の男たちが砕いた石をドコナムロ隊とキャンパー、ワンパク少年たちが運ぶ。村人は本当に力持ち！

作業が進むに連れ、砕く岩を求め、どんどん建設地から離れた山奥へ。隣は断崖絶壁。最終的に建設地から二山くらい越えていたような…

ドコナムロとは

村人が使うドコ(カゴ)とナムロ(紐)を合わせた、ネパールでは必須の運搬道具。国土がほぼ山のネパールでは背中で支えるこの道具がきっと最適で、村人は水の入った瓶でも草でも石でも、どんな斜面でも登っちゃう。日本人キャンパーもみんな挑戦！

3 石をしきつめる

ここからミステリ先輩たちの登場！熟年の目で石を見分け、大きい石から順に敷き詰めていく。我々も良さげな石を渡したり突っ返されたり、細かい石を詰めたりとお手伝い。ここでどれだけきれいに細かく敷き詰められるかが次のセメント量を減らすためのポイント！

4 セメントを作る

砂＋砂利＋セメント＋水＝完成形セメント。砂は遠く離れた山奥から。これを何往復もしている村人には頭が下がります。砂利は砕いた石をさらにさらに砕いて砕いて使用。

5 セメントを流す

上の材料をいい感じの分量をシャベルで混ぜ合わせ、皿で運び、素早く流し込み、平らに均す。セメントを渡すバケツリレーがなんとも楽しいんだな！これが！

…残念ながら我々が参加できたのはここまで。これ以降も着々と村人が進めている模様！完成後に送られてくる写真が楽しみで仕方ない！無事にできますように。

6 側面を作る？

7 上部をつくる？

2 一日の流れ

日によって差はあるが大まかに以下の通り。

11:00 ワーク開始

14:00 おやつ休憩(30 分程)

16:30 ワーク終了

おやつ休憩では、毎度ワーク地近くの家にお邪魔してごちそうになった。豆とマカイ(ポップコーン)を中心にロティや麺など毎日多種多様に振る舞ってくれた。この際調子乗って食べ過ぎて、夕食に支障がでることもしばしばなので要注意。また、ロキシー(現地の酒)も「マオラマオラ(もっともっと)」と言って無制限に勧められ、気づいたら注がれているが、この後のワークに支障大なのでこちらも要注意…。

3 資材について

今回資材がなかなか村に届かないという問題が発生した。
1月に行った下見の際、ガンガさんと共に資材屋を訪れ資材を購入し、本来2月20日まで、遅くても我々日本人が到着するまでには届けると約束した資材であったが、結果Aの3月6日となってしまった。
隣のドリマラ村からキャンプ地のマイダン村までの道のりは非常に危険であり、雨の日及びその次の日に車で通行することが実質不可能である。そのためこの道をトラクターで資材を運ぶには最低2日間晴れの日が続く必要がある。
資材屋は理由として、雨のため運ぶことができなかったという。確かに雨が多いがこれだけの期間があれば届けることは可能であると思われ、村のまとめ役であり資材屋に催促してくれるはずであったガンガさんの不在も大きかったと思われる。また下見の時点で資材費を先に払ってしまったのも要因かと思われる。
一時は本当に届くのか不安になったが、プラテクシャ、関さんを介し、様々な関係先から何回もの電話を通し、やっと数回にわけ晴れの日に届けられることとなった。またそして、全ての資材が届いたかを確認するのが難しいというネパールならではの問題もあった。

4ミステリについて

今回のワークでは、準エンジニア的役割をしてくれた村のミステリ4人に、一日 500 ルピーを給料という形で支払った。日数は話し合いの結果、我々日本人キャンパーが去った後のワーク日も含め 20 日間とし、結果ミステリ代として計 4 万ルピーとなった。
500 ルピー×4 人×20 日間＝40,000 ルピー
その代金はホーリーの日に、他のお金とまとめて、大勢の村人の前で代表してモハンさんに手渡した。

4反省と今後

・資材が届くのが遅かった。
・資材屋との連絡、交渉が非常に困難であった。
・雨の日が多くあまりワークが進まなかった。
・村人は本来休みである(？) 金曜日も日本人がワークをしようとしてしまった。

（村人は基本、金土が休み。）
・言語の壁もあり、あまりミステリと直接やりとりできず、その多くをモハンさんを介することになり、学校の先生でもあるモハンさんに多く負担をかけてしまった。

今後は上記を踏まえ、資材を購入する際は後払いでちくいち確認を怠らないことが重要であると思われる。天候に関してはどうすることもできないが、この地域にも異常気象などの影響があるのかと思われ、次年度以降も考慮する必要があるかもしれない。
様々な問題もあったが、村人と協力して楽しくワークをすることができたと思う。無知で非力である日本人キャンパーの出来ることは限られ、村人に多くを頼ってしまうワークであるが、山での移動の危険などを考慮しつつも、とりあえず村人について行き、コミュニケーションをはかるなどの挑戦も大事かもしれない。

Thank you for working together…

～村での生活をちょっとご紹介～

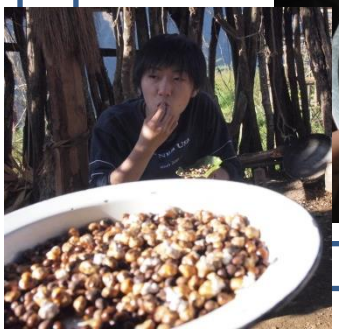
食事

基本はダルバート。野菜中心の生活。ロティという小麦粉を練って焼いたものや、ボイシードゥット（水牛のミルク）、ドイッツ（ヨーグルト）なんかもある。日本食でポップコーン作ろうぜ!!って言ってたら二日目から毎日山盛りのポップコーンが出て、「Oh..」ってなった。

ダルバートは村人がバンバンよそってくれる。油断してると山盛りになってる。トゥレ（ちょっと）っていうと丸一杯くらい。オラ（いらない）っていうと半分くらい。

ロキシーっていうお酒もある。こいつもめちゃくちゃすすめられる。（これが 2 年前のロキシーマオラ事件を引き起こす理由となるのであるが）

断るのが苦手なりょうちんはロキシーを飲まされすぎて二日酔いで寝込んだ。プライドが高いデイビットは絶対残さず食べるっつって数日間寝込むことになった。



お風呂

村にいる間はほぼお風呂に入れない。村人は週に一回くらい体を流すらしい。我々も二回ほど体を流しに行った。二年前につくったタンクまで片道 20 分ほど歩き、シャンプー、洗体、洗濯した。格別の景色をバックに必死に洗う日本人たち・・。村人は物珍しそうに眺めていた。

トイレ

ザ・ぼっとん便所。用を足した後はトイレットペーパーはゴミ箱へ。水はバケツからすくって流しましょう。ちなみに村人は毎日 10 往復前後タンクまで水を汲みに行きます。トイレットペーパーは使わず左手でバシャバシャお尻を拭くそうです。
左手でご飯を混ぜているのを見たような・・。

エンターテイメント

川島亜美

＊2015 年度のネパールキャンプで行ったイベント

・T シャツお絵かき：学校へ行き、子供たちと T シャツに絵を描く。T シャツはプレゼント。

・縁日：キャンパーで考えた日本食を村人にふるまう。メニューによっては協力して一緒に作る。

・運動会：学校の子供たちと開催。キャンパーで考えた種目を一緒に行う。手作りシャボン玉を、競技の待ち時間にやってもらう。

◎3 月 1 日：T シャツお絵かき

この日はもともとワークする予定だったが、雨が降りワークが中止。急きょ学校へ行って T シャツにお絵かきすることに。4 クラスに絵を描いてもらった。所要時間は約 1 時間。

用意したもの：白の無地の T シャツ 70 枚、油性ペン 10 本、アクリル絵の具、パレット、筆。

今回はそれぞれが描きたいものを描いてもらったが、お題を決めてみてもいいかも。例えば、自分のなりたいもの、お父さんお母さん、マイダン村、など…。

◎3 月 5 日：縁日

準備を 13 時～16 時くらいまで行った。

日本食のメニュー

・うどん（担当：みなみ、ひで）所要時間：約 1 時間

用意したもの：塩、薄力粉、水、うどんスープの素

結果：村の子供たちと協力して楽しくうどんをこねたり、切ったりできた。

・べっこうあめ（担当：さなこ、あみ）所要時間：約 30 分
用意したもの：砂糖、水、小さな紙コップ（容器）
結果：べっこうあめは、砂糖と水の量、火力、そしてタイミングが大事！ということなのだが、マイダン村のキッチンでは測りもなく、焚火の為火の調節ができなかった。そのため、全て目分量や雰囲気で作ったみた。見事に失敗。何かよくわからない甘いものができた。子供たちは喜んで食べてくれたよ！

・餃子（担当：なかや、ゆきりん）所要時間：約 2 時間半
用意したもの：餃子の皮 100 枚、玉ねぎ、ジャガイモ、にんにく、トマト、キャベツ
結果：タネを作るのにものすごく時間がかかった。みじん切り大変そうでしたわ…。皮に包むのは、村人と一緒に協力してできた。

・ポップコーン（担当：あらい、ミンゲス）所要時間：約 1 時間
用意したもの：醤油、塩、バター、ポップコーンのたね 1 kg
結果：荒井氏、二日酔いの為ダウン。ポップするところまでは村人がやってくれた。味付けは醤油バター。村のおやつで出るポップコーンとは違った味付けなので、村人もモリモリ食べてくれた。

・フルーチェ（担当：あみ）所要時間：約 10 分
用意したもの：フルーチェ 2 箱、村の水牛のお乳）
結果：用意してもらった牛乳が多すぎて、シャバシャバのフルーチェになった。イチゴ牛乳みたいなやつ。

どのメニューも、美味しそうに食べてもらえた（と思う）

縁日での問題点：2 時間で準備をすべて終わらすはずだったが、延長してしまった。（餃子に手間取った。）料理を食べる場所まで運ぶのが、大変だった。

対策：切るものが少ないメニューを作る。最初から、料理を食べる場所で調理する。

◎3 月 6 日：運動会

13 時～15 時の約二時間。

学校は全 8 クラス。全員で約 120 人。

種目

①しっぽとり

ルール：4 クラスと 4 クラスに分けて、5 分間の戦いを 1 回ずつ行った。おしりにしっぽ（ビニール紐）をつけ取り合いをする。最後にしっぽが残っていた人が勝ち。

結果：単純なルールだったので、かけっこのように皆が楽しんでくれた。高学年の方のチームは激しかった。

②つなひき

ルール：1 クラス VS1 クラス。つなをひいて、お互いに決めた線まで相手チームをひっぱったら勝ち。

結果：これもただつなを力いっぱい引くという単純なルールであったので、盛り上がった。

③うまとび

ルール：2 クラス VS2 クラス。グラウンドを馬跳びで U ターンして早く帰ってきたチームが勝ち。

結果：難しいルールで、説明に手間取ってしまった。おそらくちゃんとしたルールは伝わっていない。しかしネパールには馬跳びという文化はなく、人を飛ぶ（またぐ？）という行為に子どもたちは大はしゃぎだった。列がぐちゃぐちゃになってカオスだったが、かなり盛り上がっていた。

④おおなわ

ルール：縄は 3 本あり、1 クラス 1 チーム。3 クラスがそれぞれ同時に飛び始め、1 番早く 5 回連続で飛び終わったチームが勝ち。

結果：低学年（クラス1、2）の子供たちはジャンプができないと先生に言われ、その場で対策を考える。がしかしその間に皆各自で縄跳びやかけっこを始めてしまい、収拾がつかなくなってしまう。

⑤その場でディビットが教えてくれたドイツの遊び

ルール：人をよけて、グラウンドを走る。タッチされたら、人を捕まえる側に入る。時間以内にタッチされず、残っていた人が勝ち。

結果：とりあえず逃げることを楽しんでくれていた。

⑥ドッヂボール

ルール：1 クラス VS1 クラス。コートの中でボールを投げ合う。ボールが当たったら外に出る。復活はなし。5分間行った後で、多く人が残っているチームが勝ち。

結果：持って来ていたはずのバレーボールが村の子供（ヤンキー）に盗られていたので、ボールが用意できず、ドッヂボールはできなかった。（T T）

⑦シャボン玉（担当：ヒデ）

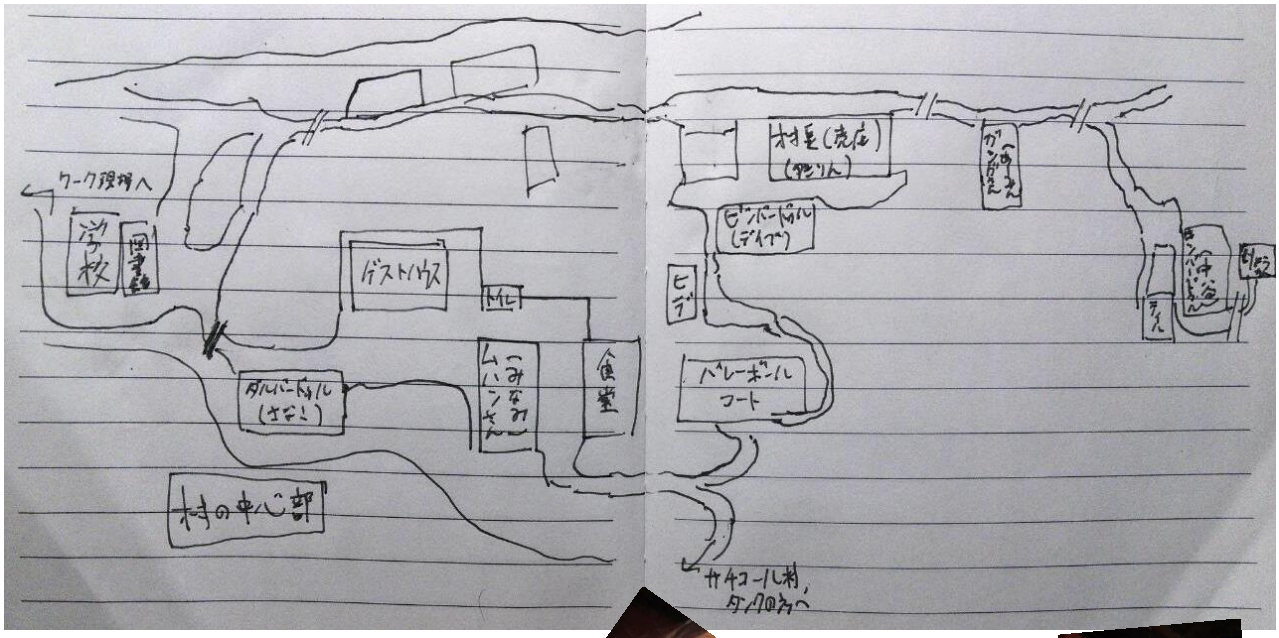
シャボン玉は理系男子ヒデの手作り！競技中の待ち時間に、子供たちが楽しそうにやっていた。

運動会での問題点：当日はコーディネーターが不在の為、ルール説明が困難だった。事前に伝えてもらっていたのだが、難しいルールのものは細かいところまで伝わっていなかった。

対策：デモンストレーションを見て、理解できる単純なルールな種目にする。

ホームステイ

3 月 2 日から 7 日までの 5 泊 6 日、ホームステイをさせていただいた。ホームステイにあたっては、ムハンさんに家を選定していただき、一人一人違う家に宿泊した。



ホームステイ中の一日の流れ(例)

5:00	起床
6:00	チャイ(お茶)やロティを頂く
7:00	ミーティング
9:00	ホームステイ先で朝食
11:00	ワーク開始
17:00	ワーク終了
7:00	帰宅、夕食
9:00	就寝

ホームステイ様々

りょうちんの場合

彼のコミュニケーション手段はすごい。ヤギを見たら「ヤギッ」、ニワトリを見たら「ニワトリッ」っていうだけ笑。一回、周りに誰もいないのに、「ヤギッ」って言ってて、この人大丈夫かなって思った。あと、ミーティングに大遅刻した日があって、りょうちん曰く「行こうとしても座らされてご飯を出され、抜けられなかった」。しかし村人曰く、「ミーティングはいいのかって聞いたけど、座り込んだからご飯をだした」って笑。真相は闇の中。ロキシーを飲んで夜中にこっそり吐きに行った翌日からは、ロキシーが出なくなったらしい。村人はちゃんと見てるんですねー。

みなみの場合

ムハンさんも、彼の奥さんも英語が使えるため、いろいろなことを話してたみたい。もともと最初にムハンさんが村にいなかった理由が身内に不幸があったから。ネパールでは身内に不幸があると、塩なんかを食べないようにする。ムハンさんの家で暮らす子どもには親を亡くした子もいる。普段、キャンプでは見れないような部分を一番見たかもしれないなー。

あーみんの場合

ガンガさん宅。ガンガさんも、息子もいなかったため、アマ（お母さん）と二人きり。猫を追いやるアマの姿を見ながら夕食を食べ、夜は早めに就寝していたよう。一ヶ月前に中谷がガンガさん宅に泊まった時、預けていったふりかけが無くなっていて、あーみんが見つけてくれたんだけど、ふたが空いていた。個人的には実はあーみんがこっそり食べてたんじゃないかなーとか思ってる笑

ヒデの場合

11 人家族で 7 人の子ども。村ではこれくらいの家族が当たり前。トイレに電気がついていてリッチな家だったかもしれない。折り紙を折って遊んでいて、つるを折ってあげたら、翌日には全部、紙ヒコーキに変わってたらしい笑

さなこの場合

ダルバードゥルの家。中谷も二年前にお世話になった家だが、ダルバードゥルに奥さんがいて子供もいた!!奥さんは隣村の人で、ホーリー（お祭り）で途中実家に帰っちゃって、最後は会えなかったみたい。弟のナルは村の中に彼女が二人いることが発覚。さなこはミーティングするゲストハウスから一番近いのに、いつも一番遅くに来た。二度寝禁物ですな!!

みんげすみんげすの場合

ピンバードゥルの家。バードゥルばっかり笑。ごはん食べてるときもみんなに見られててちょっと緊張したって。だから食べ過ぎておなか壊したんだろうなー。みんげすは、母国語として、ドイツ語、英語、第二（三）言語として日本語を話せるけど、村人とは共通の言語はなかった。改めて言語って大事だなーって。

ゆきりんの場合

村長さんのところ。もともとホームステイする予定だったところから急に来たけど暖かく迎えてくれてよかったって!!辛いものを「辛い辛い」って言ってたら次から辛くなくなったり、夜ひとりで寝るのが怖いから子どもと寝てもらったりってなんだかんだ日本語でも伝わるもんやね笑

なかやの場合

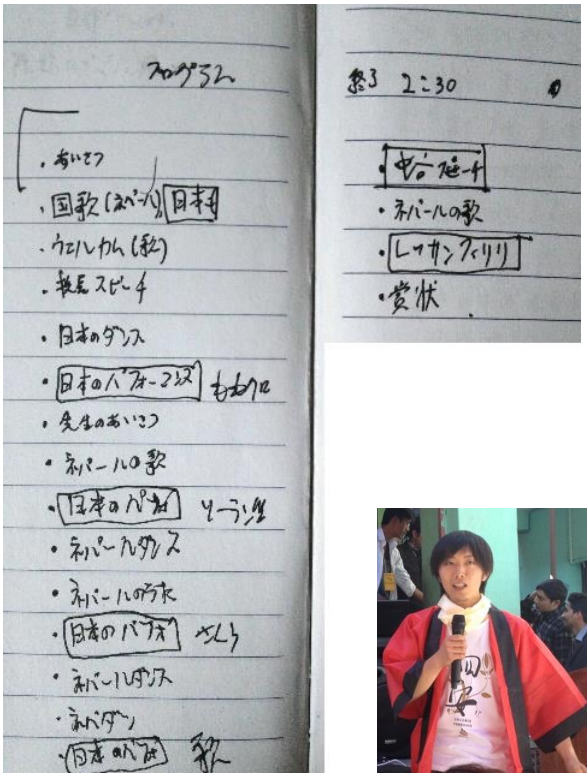
キンバードゥル（通称キンさん）の家。ビムって子が「ナカヤー」って抱き着いてきてチョーかわいいの。でも「あなたの名前はなんですか」、「私の名前はビムです」って教えたんだけど、「私の名前はなんですか」ってなっちゃった。まあよくあるよね。前よりはネパール語わかるから、アマとかと簡単なコミュニケーションができたのは嬉しかったなー。

ダンス交流プログラム

岡田悠希

<内容>

Rupak Memorial International Higer Secondary School という学校にて交流した。プログラムは全部で約 20 あった。校長や関さん、中谷さんのスピーチやダンスや歌などを織り交ぜて構成されていて、日本側からは歌を二曲ダンス二曲を発表した。最後にはレッサンピリーリーというネパールの歌を参加者全員で円になり歌った。交流会が終わった後、校長室にお邪魔して校長とお話をさせて頂いた。



<反省点>

1.発電機の配達が遅れたこともあるが、本番中に進行がスムーズにいかないことが多かった

2.本番中に生徒達がずっと騒いでいた

<改善点>

学校側とこちら側とのリハーサルを事前に行うこと。

生活リーダー報告

荒井諒

1. 目次

活動履歴…p1
救急箱の中身…p1
キャンプ中について…p1-2
その他…p2-3

2. 活動履歴

2 月 5 日	任命
2 月 19 日	救急箱が用意済みだということを知る
2 月 22 日	テロ対策しなきゃなと思いながら出発する
3 月 12 日	帰国

3. 救急箱の中身

ガーゼ(一般医療用)	1 枚(30cm×1m)
体温計	1 本
サージカルテープ	1 ロール(12.5mm×9m)
酔い止め(アネロン)	1 箱(9 カプセル)
総合カゼ薬(パブロンゴールド)	1 箱(130 錠)
消毒(マキロン)	1 本(75ml)
ムヒ(手で塗るタイプ)	1 本(18 グラム) ※未使用
胃腸薬(正露丸)	1 箱(260 錠)
皮膚疾患薬(オロナイン)	1 箱(100 グラム)
頭痛薬(バファリン)	1 箱
絆創膏	数十枚(大中小)

4. キャンプ中について

・ハサミ

【問題】ガーゼを切るためのハサミを用意し忘れる

【原因】救急箱の中身確認が適当だった

【対策】2 人以上で買い出しに行く、確認はしっかりと行う

・胃腸薬

【問題】足りない

【原因】豚を食べたことによる腹痛

【対策】正露丸の他にビオフェルミンや太田胃散を用意する

・絆創膏
【問題】足りない
【原因】村人怪我しすぎ！！！
【対策】大 50 枚、中 100 枚持って行くとおそらく足りる
【コメント】キャンパーより村人のケアが多かった。

・ロキシー(酒)
【問題】ワークの休憩中に飲む
【原因】村人の勧められる
【対策】断る
【コメント】飲酒した状態で行うワークは危険。崖から落ちる可能性あり。

5. その他

● テロについて

ここ最近では ISIS が話題になっているが、海外においてテロは非日常ではない。特に今回のキャンプでは、春節中の中国や中東を経由してカトマンズに到着する飛行機に乗っていたため、一層気をつけるべき項目だった。
個人レベルでテロを警戒したところで…となるかもしれないが、しないよりはした方が良い。そこで個人でできる対策を以下に載せておく。

1. 建物・地下施設内にいる時は、最短距離の出口(非常口)を確認しておく。
2. 高層物件に関しては非常階段も確認しておく。
3. 懐中電灯を携帯する。
4. ハンカチやタオルを携帯する。
5. 公共の場所において、ゴミ箱付近に近寄らない。
6. 落ちているモノ(不審物)に触れない。
7. 額に傷のある子どもには近寄らない。
8. ガスマスクを携帯する。

テロが実行されてしまったら、個人レベルでできることはほぼないが、爆弾が仕掛けられていそうな場所を回避することは可能である。ゴミ箱は特に仕掛けられやすい場所と言われている。また、額に傷のある子どもは薬物で操られている可能性がある。自爆テロの典型だ。ガスマスクはコストパフォーマンスが低すぎるので資金面に余裕がある場合のみ検討してほしい。

● インフルエンザについて

現在(2015 年 3 月 17 日)、インドで豚インフルエンザが猛威をふるっている。3 月 14 日付けでインド国内の死者は 1710 人、感染者は 2 万 9558 人に達している。インドでこれほど流行しているということは、いつネパール

に入ってきてもおかしくない状態だったことは間違いない。村には豚も鶏もいるので今後必ず対策を考えておかなければならない。以下に基本的な対策を載せておく。

1. ワクチン接種
2. 飛沫感染対策としての咳エチケット
3. 外出後の手洗い等
4. 適度な湿度の保持
5. 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
6. 人混みや繁華街への外出を控える

ワクチン接種を義務付けることも視野にいれた方が良いかもしれない。またキャンプ後は疲労も溜まっており、免疫も低下していると思われるため、今回のように休養日を設けることは非常に意味のあることだと考えられる。

- 飛行機事故について

乗っている時に墜落事故が起こってしまったら後は運を天に任せるしかないが、その他であれば対策は可能である。

1. シートベルトの着用
2. 機内の緊急時マニュアルを必ず読む
3. 複数パターンの帰路を考えておく

今回、関昭典の乗った飛行機が事故を起こし、シートベルトをしていなかった乗客は天上に浮いた。骨折した乗客もいたそうだ。シートベルトはかならずしてほしい。またそれに伴い、機内の緊急時マニュアルは必ず読んでおくこと。
一方で、飛行機事故が間接的に影響する場合もある。今回、トリブバン(カトマンズ)空港においてトルコ航空機が着陸に失敗する事故がおこり、機体の撤去に数日を要することとなった。その間、空港は機能していなかった。陸路でインドまで行く方法も確認しておく必要があるだろう。

会計報告

David Charles Minges

日付	項目	予想金額	実際金額	備考
2 月 23 日	マイクロバス	2000 ルピ	1400 ルピ	空港からホテル （タクシー2 台x700 ルピ）
	宿泊代	2400 ルピ	4000 ルピ	Backpackers Inn 泊(トリプル＋ダブル＋シングル)
2 月 24 日	タクシー	900 ルピ	750 ルピ	ホテルからバスターミナル(タクシー3 台x250 ルピ)
	マイクロバス	5600 ルピ	5600 ルピ	カトマンズからタンセン(7 人 x800 ルピ)
2 月 25 日	ジープ	5000 ルピ	0 ルピ	マイダンの宿泊代に含まれている
2 月 27 日	宿泊代	1000 ルピ	1000 ルピ	Backpackers Inn 泊 （シングル)(関さん)
2 月 28 日	タクシー	1000 ルピ	1600 ルピ	空港からホテル＋プラテクシャ空港まで
	宿泊代	2400 ルピ	2800 ルピ	Backpackers Inn 泊(ダブル＋半ダブル＋シングル)
	村のダンス	0 ルピ	1000 ルピ	マイダンのダンサーとシンガーに払った金額
3 月 1 日	タクシー	300 ルピ	800 ルピ	ホテルからバスターミナル(タクシー2 台x400 ルピ)
	ローカルバス	2100 ルピ	3200 ルピ	カトマンズからタンセン(4人x800 ルピ)
	宿泊代	3600 ルピ	3450 ルピ	White Lake 泊(ダブル＋半ダブル＋シングル)
3 月 2 日	ジープ	5000 ルピ	0 ルピ	マイダンの宿泊代に含まれている
3 月 4 日	豚	3000 ルピ	0 ルピ	マイダンの宿泊代に含まれている
3 月 7 日	ジープ	5000 ルピ	0 ルピ	マイダンの宿泊代に含まれている
	マイクロバス	9000 ルピ	11000 ルピ	タンセンからポカラ(1台x11000 ルピ)
	宿泊代	5720 ルピ	3950 ルピ	Mountain Villa 泊(4x ダブル＋シングル)
3 月 8 日	宿泊代	5720 ルピ	3950 ルピ	Mountain Villa 泊(4x ダブル＋シングル)
3 月 9 日	マイクロバス	0 ルピ	750 ルピ	ホテルからバスターミナル(1台x750)
	バス	10000ルピ	6300 ルピ	ポカラからカトマンズ(9 人x700 ルピ)
	タクシー	0 ルピ	1000 ルピ	バスターミナルからホテル(2 台x500 ルピ)
	宿泊代	6900 ルピ	7000 ルピ	Backpackers Inn 泊(4x ダブル＋シングル)
3 月 10 日	宿泊代	6900 ルピ	7000 ルピ	Backpacker Inn 泊(4x ダブル＋シングル)
	プログラム諸経費	10000ルピ	7800 ルピ	移動、移動他
3 月 11 日	マイクロバス	2000 ルピ	500 ルピ	ホテルから空港(関さん)
その他	コーディネーター料	22500ルピ	27000 ルピ	シャラッド 7 日、プラテクシャ 11 日(x1500 ルピ)
	コーディネーター諸経費	5000 ルピ	1600 ルピ	マイダンからカトマンズまで(2 人x800 ルピ)
	コーディネータ食費	6000 ルピ	1550 ルピ	後発組のマイダンまでの食費
	村の宿泊、支援金	8500 ルピ	90000 ルピ	6 人 x10 泊x1200 ルピ＋3 人 x5 泊 x1200 ルピ
				(豚、ジープと 40000 ルピのミステリ料含まれている)
	ワーク資材費	58293ルピ	58293 ルピ	
	計画費	0ルピ	1267 ルピ	ハンバーガー、ヌードル、牛乳など

残ったルピ		中谷への各コスト返し	0 ルビ	10000 ルピ
	豪華なディナー	0 ルピ	17719 ルピ	
	ルピ分け合い	0 ルピ	4721 ルピ	
	関さんの航空券	114000 円	118520 円	
	円の分け合い		11480 円	
	合計		28700 ルピ /0.82 + 130000 円	
			480000 円	

会計の巨細、問題点と感想

コーディネーター

巨細

・シャラッドに 2 月 23 日，24 日，25 日，26 日，27 日，28 日，3 月 1 日の 7 日間の分を払った。

・プラテクシャに 2 月 23 日、28 日、3 月 1 日、2 日、3 日、4 日、5 日、6 日、9 日、10 日、11 日の 11 日間の分を払った。

・1 日 1500 ルピ、合計で 27000 ルピを払った。

・シャラッド、プラテクシャと関さんの食費、宿泊と移動もネパールキャンプの参加者が負担した。

問題点

・半日や移動だけの日を支払うべきかどうかが疑問。例えば、空港の歓迎だけの日に、1 日分ではなく、半額で十分ではなかったのだろうか

・後発組のカトマンズからマイダンまでの食費代が明確で、一遍に払えた。しかし、そのほかの日の食費代が会計からではなく、個人のお金からも払われたケースが多かったため、コストとその負担が不明確であった。

マイダン村の宿泊代

巨細

・村の宿泊代と各経費が何度も変わった

・まず、1人の1泊が1000ルピ、合計で85000ルピと35000ルピのミステリ代と豚、ジープの別払いという計算になっていた。（近藤ゆきを除き）

85000+35000+15000+3000 = 138000 ルピ

・つぎ、最初のゲストハウスの4日間の宿泊とコーディネーターの宿泊を無料にし、ジープ代を1000ルピの中から引かれるようになった。（近藤ゆきを除き）

59000+35000+3000 = 107000 ルピ

・最後に、35000ルピのミステリ代が1000ルピの中から引かれると決めた。しかし、そうすれば、メンテナンス料やホームステイ先への金額が1日500ルピ以下になると計算し、1000ルピを1200ルピに上げた。それに対し、村が豚を無料にしてくれた。（近藤ゆきを除き）

90000 ルピ（75 日x1200 ルピ）

問題点

・不明な点が非常に多かった。メンテナンスとはいったい何か。ホームステイ先にどれぐらいのお金が届くか。ミステリは何日間働くのか。

・ネパールキャンプの目的が金融的な支援か、交流か、ワークか、支払う金額がその目的を反映するより、オーケバジの考え方によって形成される。団体として、方針が決めにくい。

・支払うお金によって、村で悪影響をおよび、格差を広げるおそれがある。ミステリにかなりの代金を支払っているのに、ただ働きしている村人もたくさんいる。ホームステイによって、金が寄ってくるという間違った考え方になりうる。

残った金額

巨細

・中谷さんの準備、水、食材によるコストを少しだけでもカバーするように、10000ルピを返した。

・最後の夜に、皆でカトマンズのレストランで豪華な夕食をとった。

・残りの金額を8人で分けた。

会計リーダーとしての感想

様々な金額が突然に変わり、予想金額と実際支払った金額にかなりの差が出てしまった。それに、コーディネーターと関さんの食事、宿泊と移動が会計の計算に含まれたのに対し、近藤ゆきさんが別払いとなったため、計算が非常に複雑だった。

しかし、それがチャレンジとして大事な経験だった。海外でプロジェクトをやろうと思ったら、具体的にどのような問題が発生するかは体験できたに違いない。

マイダン村の1000ルピの宿泊代に関しては、オオケーバジさんとはっきりした金額を決める必要がある。そしてその金額の巨細を明確する必要がある。それさえできなかったら、はっきりした方針、目的の上のネパールキャンプが不可能であるから。

記録リーダーから

中野秀昭

今回のネパールキャンプではキャンプ中に、今後のネパールキャンプをどうするべきかを考える時間を設けた。というのも、今回のネパールキャンプは準備段階でネパールキャンプの協力者である OK バジさんが話し合いの度にお世話になった村へ払うお金の金額が変わったからだ。二年前のネパールキャンプの会計係で今年のリーダーの中谷さん、今年の会計係のデイビットさん、ここ数年ネパールキャンプに協力してくださっている関さんを中心に村人に一泊何 Rs 払うべきかを考えた。今年は会計の報告書にあるように、村に対して1泊1200Rs を払った。この精算は2年前のデータをもとに考察し村人の代表と話し合った結果であり、OK バジさんの承諾は得ていない。もし今回の精算が OK バジさんの都合にあわなければ、OK バジさんが帳尻を合わせるだろうと考えたからだ。今回の精算のことを OK バジさんはよく思ってない可能性もある。OK バジさんは FIWC という団体をあまりよく理解しておらず、FIWC を支援団体と認識していた。このことによりワークをするのに支援金も払わなければならないということになった。しかし、一概に OK バジさんが FIWC の方針を理解していないから問題が起こったとは言えない。なぜならば、ここ5年間くらいネパールキャンプは毎年開催されているのにも関わらず、引き継ぎがしっかりおこなわれていないためネパールキャンプは断続的な活動になっているからだ。もちろん FIWC はワークキャンプの目的は掲げているが、ワークをすることの目的はその年のリーダーに任せている。リーダーがこだわりを持ってその年のワークをすることの目的を決めるということはよいことだが、1組織として考えると毎年リーダーのワークの目的が違うというのはよくない。ネパールキャンプは10年以上前から OK バジさんに手助けしてもらっているが、FIWC は毎年リーダーが違うことにより毎年方向性が違いどんな団体なのか分からなくなったため今回のようなことになってしまったと考えられる。ネパールにおいて海外の支援団体の数が増加していて OK バジさんが支援を管理することが難しい状況になってきていることもあり、OK バジさんは支援団体に1泊何 Rs かを一律で払ってもらおうというルールを設けたが、そのルールが曖昧なため会うたびに金額が変わってしまったのではないかと考えられる。今後、OK バジさんの管轄の村でワークキャンプを行うのであれば今回のように話し合いの度に金額が変わるというような事態が起こってしまう可能性もある。お金の問題を特に気にしないのであれば OK バジさんに引き続き協力をおねがいしても良いだろう。次年度から OK バジさんの管轄の村以外でも活動出来るように日本とネパールに拠点がある YouMe Nepal Trust という非営利団体の方と直接コンタクトをとった。YouMe Nepal Trust の方は是非協力したいとおっしゃっていた。もし、YouMe Nepal Trust に協力してもらうのであれば向こうの条件であるコタンという OK バジさんの管轄の村より貧しい村でのワークキャンプとなるが、金銭面はこちらの融通が利かせやすくなる。貧しい村でのキャンプということで今までのワークキャンプより過酷なワークキャンプになると考えられる。最大のネックとなるのは今までもそうであったがキャンパーの英語のコミュニケーション能力だ。もし YouMe Nepal Trust に協力してもらうのであれば、日本にいる間は日本に拠点を置いている方と日本語で話を詰めていけば良いが、実際に現地に行ったときは英語しかコミュニケーションを取れる手段がないため少なくともキャンパーの1人は英語が話せなければならない。

以上のことから、今後のネパールキャンプは以下の項目を決定すべきである。

・引き継ぎをどのように行うか

・今まで通りワークの目的はその年のリーダーに一任するか

・今まで通りバジさんに協力してもらうか YouMe Nepal Trust に協力してもらうか、別の人に協力してもらうか

次年度のリーダーはこのような現状があるということを知った上でネパールキャンプを作り上げて欲しい。

感想

＜中谷拓隆＞

今回でマイダン村を訪れるのは 3 回目。思えば長かった。

2 年前のいわゆる「ロキシーマオラマオラ事件」。村人に進められるロキシー（ネパールのお酒）をマオラマオラ（もっともっと）と言い続けて、気づけば毛布の中。めちゃくちゃに酔っぱらって暴れて心配した村人たちがタンカで運んでくれたらしい。あれからの数日間は少なくとも人生で最悪のテンションだったなー。キャンパーからはゴキブリのように見られ、日本人の信用を落としたと関さんに怒られた。でも、そん中で、タンカで運んでくれた 1 人、ティルのところに謝りに行った時のこと。彼は言った。「みんな君を心配しただけだよ。またこの村に来てほしい。みんなまた来るって言うけどそういってまた来る日本人はとても少ない。」その時のキャンパーにも、この責任を果たすにはまたこの村に来ることだと言われた。またこの村に絶対戻ってくると決意した。

それから 2 年間、あの村をあの出来事を忘れたことはなかった。大学生活の後半はネパールキャンプにつぎ込んだと言っても過言ではない。昨年のキャンプは現地には行けなかったものの、準備段階からリーダーのそばでお手伝いをさせてもらった。そして 1 年前の 4 月、僕はネパールキャンプのリーダーになり準備を始めた。関さんにコーディネーターをお願いすることにした。話し合いの末、マイダン村でキャンプを開催することに決まった。「2 年間の責任をやっと果たすことができる」。

そこからもいろいろあった。僕は毎月、東京で行われるFIWC関東委員会の定例会に出席した。夜行バスでの旅にすっかり慣れてしまった。ぶっちゃけいうと毎月行ってたけど、責任は取ってはくれないし、お金も一切援助はしてくれない。でもいろんな助言はもらえたし、いろんな経験や話を聞くことができた。帰国中のOKバジに会うために茅ヶ崎に行ったこともあった。東海でも何度か告知させてもらった。大学で所属する赤十字奉仕団でも告知させてもらった。足は使ったが、SNSを活用するなどもっと広報を行うべきだったと反省している。人集めだけでなく、発信していくという意味でも。

秋になり本格的な準備が始まるも道のりは険しかった。OKバジとなかなか連絡がつかない、円安と物価高で参加費が高くなる、現地コーディネーターが見つからない等々。なんだかんだ 1 月に行った下見。バンダの影響でたった 1 泊しか村にいれない。でもあんとき村に入った時の感動は忘れられないなー。2 年ぶりに訪れた村。ガンガさんが「みんな君のことをロキシーマオラマオラで覚えてる。君の名前は覚えてないケド」って笑。村人と真剣に話して決めたワーク、資材も買いに行った会うはずだったスンダルさんはインドに行っていていなかった。

下見後も大変だった。参加費が高くなりそうだし、通訳がなかなか見つからないし、キャンパーのみんなとも話し合っとくことは多々あった。バタバタしながら気づいたら当日。トリブバン空港でみんな集合できたときは嬉しかった。シャラッドが来てくれてよかった。やっとスンダルさんにも会えた。OKバジにも。で村に行ったけど責任者がいない。雨は降るし資材は届いていない。もう不測の事態は慣れっこです。あの村で、キャンパーと、タンセンの学生と村人と、時間を共有するだけでいいんです。もちろん共同作業できたらなおいいんです。だんだんお互いが分かってくるでしょ？

結局ワークは全然進まなかった。でも、村人と最後まで何事もなく楽しく過ごし、他人の考え方を理解し、自分の役割を果たしたメンバーは本当に素晴らしかった。みんなが少しでも学びがあるキャンプであったなら、僕は泣いて喜びます。

あの村には絶対またいく。今度はもっと楽な気持ちで。あとネパキャンのことまだまだ考えんといけんけど、とりあえず今回無事終わってよかった。ほっとしますわ。

＜樋口美波＞

朝日が昇ると同時に起きて、日が沈んで動物も眠ったら人間も眠りに入る。村人と同じ生活をして、同じ時間を共有して、伝えたいことが伝わらない時、相手の思いを知りたいけどわからない時言葉が通じればな～ってよく思った。でも、そのもやもやしたような感情よりも、少しお互い分かりあえた時、自分が笑ったら相手も笑ってくれた時、相手が笑ってて自分が笑ってまた相手が笑った時とか、そういう何にもないような出来事だけど同じ空気が流れていることがすごく嬉しく感じた。支援者と被支援者とかそういう関係ではなく、友達同士、親と子、みたいな人間と人間で関わってみて、笑顔を絶やさずに、「HAPPY」ってよく言って、堂々として強く生きていて、楽しいをもっと楽しいに変えていて、あったかい優しさを私たちにたくさんくれて、、、人間として尊敬する部分がたくさんあった。火もおこせない、包丁もうまく使えない、ワークだって足手まとい、特に面白いことができるわけでもない私にいつも優しい笑顔をくれて嬉しかったな。笑顔の連鎖って本当にあるんだなって思った。

１日１日が本当に濃い毎日だったけど、ホームステイ楽しかったなー！家族は多くなかったけど、なんだか賑やかで、子供たちはよく笑って、家族みんなで同じ部屋で寝れて（妹寝相悪すぎ、弟夜泣きやばかったけど、、、）なんかあるとアマは「don't worry」ってよく言ってくれて、モハンさんもプラスの言葉をくれて。私が何か村人にしてあげられたことって何かなって考えると、思いつかないけど、マイダン村そしてネパールが大好きになりました。帰国してから、「〇〇ジー！」「アジュール！」って一人二役やってしまってるんだよね笑！

一緒にいったメンバー！会話の7割くらいはうん〇ちの話題だったけど、みんなと一緒にいるのとっても心地よかったです。デレーダンネバー！！そして、キャンプに携わっていただいた多くの方々に深く感謝いたします。デレーデレーダンネバー！！

＜荒井諒＞

ネパールキャンプの参加を迷ってる方、行きましょう。めちゃくちゃ面白いです。行かないのはもったいない。
ワークキャンプそのものに迷ってる方、ネパールキャンプか東海委員会の中国キャンプに行きましょう。ワークのあり方や村人との関係について何か新しい発見があると思います。
ネパールキャンプは過酷だと思ってる方、大丈夫です。ですが、ロキシーと豚は控えましょう。

今回、OK バジの一泊 1000 ルピー、ワーク、ネパールキャンプの今後、様々な事について考えなければならないキャンプだった。
私にはなにが正解かは分からないが「僕たちは世界を変えることはできないが、村人と一緒に笑うことはできる。」これにつきると思う。以上。

＜川島亜美＞

普通では経験できない、自分にとってかけがえのない時間を過ごせた。これからの私の人生で何か辛いことが起こっても、マイダン村でたくましく生きる村人たちを思い出すと、自分を鼓舞することができる。
ホーリーの時に、村人と輪になってご飯を食べ、一緒に踊った時間は忘れられない。あの瞬間は、このワークキャプでしか経験できないことだ。毎日ワークやホームステイなどで顔を合わせ仲良くなり、言葉は通じないが心を通わせて一緒に楽しい時間を過ごせる。自分の中で新しい幸せを見つけた瞬間だった。そして、「ああ、幸せだなあ」と呟いた時に隣から「本当にそうだね」と聞こえてきた時に、幸せは倍増した。「幸せが現実となるのは、それを誰かと分かち合った時だ」という私の好きな言葉があるが、まさにその経験ができた。マイダン村の村人たち、そしてキャンパーたち。幸せな時間をありがとう！

＜David Charles Minges＞

ネパールに行くことが初めてであり、ワークキャンプに参加することも初めてであった。そのためネパールに行く前、どんな 3 週間になるかは、全く想像できなかった。
それから 1 ヶ月が経ち、2015 年のネパールキャンプが終わった。今、ネパールの 3 週間を振り返ると、数えない切ないことを思い出す。

私にとって、今年のキャンプは楽な旅ではなかった。航空券の問題を起こし、体調を崩し、様々な出来事があった。
しかし、大変価値のあるキャンプだった。
それはまず、水不足のマイダン村で水タンクを作ることに手伝えたから。
次に、全く触れたことのないネパール人と一緒に生活がてきた。それによって、ネパール人との繋がりを少しだけでも強めたから。
また、会計リーダーと時々の通訳によって、少しだけでも役にたったから。

ネパール人のため、一緒に行ったキャンプ参加者のため、そして私のためになったキャンプだったと思う。従って、色々な問題があったにもかかわらず、大変価値があった。

このキャンプを可能にしてくれた、中谷さん、関さん、今まで行った先輩たちとネパールキャンプを支えてくれたネパール人にはとても感謝しています。ありがとうございました。

2015 年のネパールキャンプに参加して良かった。ネパールで学んだことをこれから活かす。

以上

＜加賀佐奈子＞

2015 年のネパールキャンプ。いろんな意味で本当にたくさん詰まったキャンプであったと思う。首都カトマンズから二日間のバス移動。タンセンの町では、現地お散歩と学生宅にホームステイ。村では予想外の雨の連続の中、ワークにお絵かきに運動会にホーリーに5日間のホームステイ。10 日間の村滞在を経て、ポカラではそれなり観光でヒマラヤ朝日に山登り。更にカトマンズでは、現地の学校との交流プログラムと YouMe ネパールとの初顔合わせ。帰りの飛行機はなんだか事故でゴタゴタなカトマンズトリブバン空港。ひとつ終わったらまた一つと落ち着く暇がないような、でも全て充実していて、村あり観光あり交流ありの濃い三週間だった。

同じネパール内でもカトマンズ、ポカラ、パルパ郡のタンセンそしてマイダン村では、気候から景色、言語やら人まで、全て多様で異なるということを現地に行って実感した。首都カトマンズではとにかく砂と人と車とゴミ。人口過密が深刻と聞くカトマンズの空気は、お世辞にも綺麗とは言えなくて、草木は枯れ果て、空は常にどんよりとした独特の色。カトマンズを離れるに連れ、多く見られるようになっていく緑。一風変わって観光の街ポカラは、ちらほら漂う南国の雰囲気に、ゆとりのある道路でのんびりとした街。パルパ郡の中心地タンセンは、とにかく坂の町。目的地マイダン村はどこかタイムスリップしたような景色と、もうとにかく断崖絶壁。一寸先は崖。そして驚いたのは顔の系統の違い。バスで3時間離れただけなのに、タンセンはインド系の濃い顔の作り。それに対してマイダン村に住むマーガル族は比較的彫りが浅く、どことなく日本人に近いような東アジア系の顔。単一民族でどこに行っても日本人の日本に慣れているとこんなことまでびっくりさせられた。

マイダン村ではとにかく村人の優しさに驚くことが多かった。食事の際はもういいよと言うくらいおかわりをよそってくれ、私たちの様々な企画を柔軟に受け入れてくれた。何よりも見ず知らずの外国人をこんなに温かく迎えいれてくれることが、とても嬉しくありがたかった。
歌と踊りそしてお酒は、何もないところからでも生まれる本当に全世界共通の娯楽であるということを再認識した。何よりも楽しく、言語衣服環境などが違えど、一緒になって楽しめる最高の文化であると感じた。
また、村ではところどころ男尊女卑のような風習が見受けられた。きっとそれらの行動に彼らは意識はなく、昔からの習慣でしかないのだろう。これも村に、現地に行ったからこそ分かることであった。
しかしきっと私たちに見えているのは村のほんの一部で、まだまだ知らないネパールや村の抱える様々な問題があると思う。病気結婚学校出稼ぎ等々、想像し得らない問題もあるだろう。私たちが行くことによって生じる私たちの知らない影響もあるかもしれない。
ただ単に村に楽しく入るだけでないことを、意識することも必要かもしれない。

後悔してるのは寝すぎたこと。毎朝欠かさず行われている村人の水運び。そして朝のチャイタイム。わかっていながらも睡魔に負け続け、気付いたらミーティングの毎日。日本でできないことはネパールに行ってもどこに行っても出来るはずはない早起き。それ以外でも、村に入るためにとできたことは現地の言葉を覚える努力など、もっとたくさんあったはず。村に入れば、入っただけ楽しいし、お互い得るものも増えるはずだから。
そしてどうしても関わる村人が中心部に偏ってしまうこと。ワークでもその他の企画でも、来てくれるのは恐らく比較的近くの住人。ある意味本当に関わるべき村人は、中心部から離れ、学校に行けなかったり、村の行事に関われない村人なのかもしれない。しょうがなさもあるが、このようになってしまう現状に悔しさも覚える。

ネパールの村はとにかく遠い！距離であり、気持ちであり、とにかくたどり着くのが大変。だからこそ行って分かることは多く、行く価値は何倍にでもなる気がする。
たった 10 日間の滞在だったけれど、最後には村のことをもっと知りたいと思える。村人ってすごい！
そして村はまだまだたくさんあって、村一つ一つそれぞれのカラーがある。そう考えただけで、何ともいえない楽しさとわくわく感がある！

個人的には今回のキャンプいい意味でとても成長できたと思う。行き先は違えど、二回目のキャンプということもあり、戸惑うことも少なくなり、キャンパーの一員としてより深くキャンプに関われたと思う。ワークリーダーとして役割を全うできたかどうかは分からないが、やってよかったと心から思い、関われたことを嬉しく思う。それと同時に本当に日本人メンバーや周りのサポーターの方に恵まれたキャンプであったともとても思う。メンバーといると楽しかったし、学ぶこともあり、何よりも最後にはそれぞれの尊敬できる部分をみつけることができた。

また今回は FIWC という団体とワークキャンプについて考える機会が多いキャンプでもあった。10 年ほどパルパ地域で OK バジさん協力のもと行われてきた FIWC のネパールキャンプだが、様々な事情により、新たなキャンプの形を考える必要が出てきたから。それを考える中で大事なのはワークキャンプの定義目的、FIWC の団体としての方向性、理念。私が今まで参加したのはフィリピンキャンプとこのネパールキャンプであるが、両者とも現地のインフラ整備が関わるという点では近いが、それでも方向性なり理念は少し違っていると感じる。その中でも共通して言えるものは何なのか。自分なりに考える魅力は、住んでる環境、言葉、文化など違う相手と一緒に、心から楽しめること。これはワークキャンプならではだと思うし、なかなかできることではない！そして何よりワークは楽しい！…

こんなことを考えて日本に帰って、なんだか少し夢見心地で日本の日常に馴染めずにいても、一週間も経てば、すぐに元に戻って変わらぬ日常なのがなんとも変な感じで面白いような悲しいような！！

2015年参加できてよかったです！ありがとうございました！！

＜中野秀昭＞

今回のネパールキャンプは僕とゆきりんは後発組で 2 人とも初めての海外で不安だらけでした。特に上海ではホームステイをさせてもらう予定で集合場所と時間と行き方を教えてもらっただけだったので不安すぎて全身がキリキリしてました。なんとか無事に上海を出発できてカトマンズでも関さんたちに合流できました。ネパールに着くと日本にいる時とは全然生活環境が違って戸惑いましたが、2 日もすれば慣れました。カトマンズに着いてからもマイダン村に着くまでは車で 2 日かかりその移動途中は村に近づくにつれて、道が険しくなりテーマパークのアトラクションレベルに揺れました。マイダン村の近くのドリマラ村で先発組の人達と合流しました。先発組の人の中には初対面の人もいましたが、先発組の人に会えてとても嬉しかったのを今でも覚えています。
村での生活は 21 世紀とは思えない生活で日本が恋しくなるどころかむしろ生活が違いすぎて楽しかったです。村では村人と共にワークをしたり、豚を殺して食べることがどういうことなのかを学んだり、言葉が通じないなりに

村人とコミュニケーションを取ったりしました。村での生活は毎日が新鮮でとても充実していました。村にいてコミュニケーションにおいて大事なのは言葉ではなく、コミュニケーションを取ろうとする意思なのだなと学ぶことができました。
このようなことは人から言われても実感がわかず他人事のように思えてしまうが、実際に村に行くと日本にいても学べないことを学べるきっかけになるから行こうか迷っている人は行くべきだと思う。

＜岡田悠希＞

ヒデと遅れての出発でお互いが初海外。上海で降り立つもホームステイさせてもらう家族と連絡が取れずにパニックから始まり、カトマンズで関さんと会い、村で先発組と合流するまでが本当にとても長かったです。それも、移動だけの日々で途中で帰りたくなった程です。でも村に入ると、キャンパー全員と村人たちと過ごす日々がとても楽しく、村での生活はあっという間でした。ワークはもちろんホーリーの日に縁日をしたり、学校で運動会をしたりなど、イベントが盛りだくさんだったからかもしれません。私のホームステイ先は村長さんのところでとてもいい家族でした。子ども達がたくさんいたから日本から持って行った風船をあげると、とても喜んでくれてまた、一緒に遊ぶことができたのもとても嬉しかったです。最初の方の天候は悪く、ワークができない日もありましたが、その分村人たちと交流することができて私はある意味良かったと思います。私は村での生活を通して、言葉の通じない人との交流は初め難しく、不安に思っていましたが、少しのネパール語と身振り手振りで十分コミュニケーションが取れることを知りました。 またここに来たい、もっとネパールのことが知りたいと思ったキャンプでした。